

第2回 唐津港の中長期ビジョンに関する検討会

- 本検討会では、概ね20～30年先を見据えた際に唐津港で必要と想定される港湾の機能・役割を踏まえ、「中長期ビジョン」として今後の方針・施策等を整理することを目的として、港湾利用者や行政関係者等による議論を進めている。
- 令和5年1月25日に開催した第2回検討会では、第1回検討会(令和4年11月30日開催)での意見等を踏まえて整理した唐津港における目標、取組の方向性、取組方策の案について、各構成員から意見を頂いた。令和4年度末までに第3回を開催予定。

唐津港



構成員一覧

【企業・団体】

ENEOS グローバスターミナル株式会社
 大坪産業株式会社
 唐津港運輸株式会社
 唐津港水産振興協会
 唐津商工会議所
 九州郵船株式会社
 合同会社唐津バイオマスエナジー
 松浦通運株式会社

【行政】

佐賀県 唐津土木事務所 港湾課
 唐津市 都市整備部 みなと振興課
 九州地方整備局 唐津港湾事務所

(敬称略、順不同)

主な議題

物流・産業

- ・ 船舶大型化への対応
- ・ ヤードの拡張
- ・ 企業誘致等のための産業用地の確保
- ・ ポートセールスの実施

人流・賑わい

- ・ 「みなとオアシスからつ」を中心とした港の賑わいづくり
- ・ 賑わい空間形成のための用地確保
- ・ 官民連携によるクルーズ船の誘致

環境・エネルギー、防災・減災

- ・ カーボンニュートラルポートの形成
- ・ 予防保全型の維持管理等による防災・減災対策の推進
- ・ 大規模災害時における緊急物資輸送拠点の機能向上

検討会で頂いた意見の一例

- ・ 現状で一番困っているのは、大型船対応が4号岸壁しかないこと。また、大型船対応の岸壁について、緊急性が高いのはバイオマス燃料や厚板の取り扱いだが、洋上風力発電関係での利用についても期待。
- ・ 唐津市内の卸売市場は散在。火力発電所跡地利用も含め、青果市場、花卉市場等も併せて一つにまとまれば、流通面もメリットがある。
- ・ 今回の中長期ビジョンは20～30年先を見据え、利用者、佐賀県、唐津市の意見を取り入れた内容になっていると思う。唐津港の発展のために一致団結して取組を進めていただきたい。

議事次第

日時: 令和5年1月25日(水)10:00～12:00

場所: 唐津市民交流プラザ第1・第2会議室

1. 開会

2. 議事

(1) 第1回検討会の振り返り等

(2) 唐津港における中長期ビジョン(案)について

1) 課題の整理

2) 目標(案)と取組の方向性(案)

3) 取組方策(案)

(3) 情報提供

(4) 意見交換

3. 閉会



検討会の様子

第2回 唐津港の中長期ビジョンに関する検討会 議事概要

日時：令和5年1月25日（水）10:00～12:00

場所：唐津市民交流プラザ第1・2会議室

【主な意見】

- 本検討会に要望書を提出する。①洋上風力発電の推進とO&M拠点形成、②バイオマスチップ材等の搬入場拡張・岸壁整備、③CNPの形成、④海上保安部施設の充実強化、⑤発電所跡地の土地利用計画の策定の5点を入れていただきたい。
- 現状で一番困っているのは、大型船対応が4号岸壁しかないこと。バルク船の標準は1万トン級から3万トン級へ移行している。船舶が大型化し、多港寄りになっている。唐津港では、3万トン級が接岸できるのは4号岸壁のみである。
- 大型船対応の岸壁について、緊急性が高いのはバイオマス燃料や厚板の取り扱いだが、洋上風力発電関係での利用についても期待している。
- 唐津市内の卸売市場は散在。火力発電所跡地利用も含め、青果市場、花卉市場等も併せて一つにまとめれば、流通面もメリットがある。
- 火力発電所跡地利用については、九州電力、唐津市、佐賀県が協定締結し検討をしているため、本検討会での意見は参考として提供するのがよい。
- スクラップ船の大型化への早期対応が必要である。今回の検討は20～30年後を見越した検討であるが、エプロンが沈下して水溜りのできる場所もあるため、安全衛生面も考慮して、早急に検討が必要。
- 皆、同じ方向を向いていると思う。唐津港の良いところを進めていただきたい。
- 今回の中長期ビジョンは20～30年先を見据え、利用者、佐賀県、唐津市の意見を取り入れた内容になっていると思う。唐津港の発展のために一致団結して取組を進めていただきたい。

【情報提供】

- クルーズ寄港地の選定のポイントについて
誘致したい客船が安全に入出港できるインフラや寄港地の地元の方々が一体となったクルーズ船寄港時の歓迎体制等、客船側が港に求めるニーズを、受入側が把握することが必要で、そのためには「自治体（地元）と船社とのコミュニケーション」が重要。
- 唐津バイオマス発電所の概要について
令和6年12月より運転開始予定。利用する燃料は、持続性に配慮した木質燃料である木質ペレット、パームやし殻を予定しており、令和6年4月頃より唐津港で取り扱う。

（以上）